

一般財団法人 静岡県建築住宅まちづくりセンター 建築物省エネ法判定業務規程

第1章 総 則

(趣旨)

第1条 この判定業務規程（以下「規程」という。）は、一般財団法人静岡県建築住宅まちづくりセンター（以下「センター」という。）が、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律（平成27年法律第53号。以下「法」という。）第14条第1項に規定する登録建築物エネルギー消費性能判定機関として行う法第11条第1項及び第2項並び法第12条2項及び第3項に規定する建築物エネルギー消費性能適合性判定及び建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則（平成28年国土交通省令第5号。以下「施行規則」という。）第13条に規定する軽微な変更に該当していることを証する書面（以下「軽微変更該当証明書」という。）の交付（以下単に「判定」という。）の業務の実施について、法第45条第1項の規定により必要な事項を定めるものである。

(基本方針)

第2条 判定の業務は、法、これに基づく命令及び告示並びにこれらに係る技術的助言によるほか、この規程に基づき、公正かつ適確に実施するものとする。

(判定の業務を行う時間及び休日)

第3条 判定の業務を行う時間は、次項に定める休日を除き、午前8時30分から午後5時15分までとする。ただし、窓口業務は午前9時から午後5時までとする。

2 判定の業務の休日は、次の各号に掲げる日とする。

- (1) 日曜日及び土曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する祝日
- (3) 12月29日から翌年の1月4日までの日
- (4) 8月13日から8月15日までの日

ただし、その期間に第1号に規定する休日が含まれる場合は、8月12日から8月16日の間で、その休日を除く3日間とする。

- (5) センターの設立を記念する日（7月第1水曜日）

3 判定の業務を行う時間及びその休日については、緊急を要する場合その他正当な事由がある場合又は事前に提出者又は申請者（以下「提出者等」という。）との間において判定の業務を行う日時の調整が図られている場合は、前2項の規定によらないことができる。

(事務所の所在地)

第4条 判定の業務を行う主たる事務所である本所の所在地は、静岡県静岡市駿河区南町14番1号とする。

- 2 中部事務所の所在地は、静岡県静岡市駿河区南町14番1号とする。
- 3 西部事務所の所在地は、静岡県浜松市中央区元城町216番地の4とする。
- 4 西部事務所袋井支所の所在地は、静岡県袋井市高尾町5番地22とする。
- 5 東部事務所の所在地は、静岡県沼津市岡一色816番地の1とする。

- 6 東部事務所富士支所の所在地は、静岡市富士市瓜島町 109 番地 3 とする。
- 7 甲府事務所の所在地は、山梨県中巨摩郡昭和町清水新居 1349 番地 6 とする。

(判定の業務を行う区域)

第5条 判定の業務を行う区域は、神奈川県、山梨県、静岡県及び愛知県の全域とする。

(判定の業務を行う建築物の区分の範囲)

第6条 センターは、法第 38 条第 1 項第 1 号イの(1)から(6)までに定める建築物の区分に係る判定の業務を行うものとする。

第 2 章 判定の業務の実施方法

(建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等)

第7条 建築物エネルギー消費性能確保計画を提出（建築物エネルギー消費性能確保計画を通知する場合を含む。以下同じ。）しようとする者は、センターに対し、施行規則第 3 条第 1 項に規定する書類を提出しなければならないものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、変更後の建築物エネルギー消費性能確保計画を提出しようとする者は、センターに対し、施行規則第 4 条第 1 項に規定する書類を提出しなければならないものとする。
- 3 軽微変更該当証明書の交付を求めようとする者は、センターに対し、別記様式第 1 による軽微変更該当証明申請書の正本及び副本に、それぞれその内容を確認するために必要な書類を添えたものを提出しなければならないものとする。
- 4 登録建築物エネルギー消費性能判定機関であって登録住宅性能評価機関（住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成 11 年法律第 81 号）第 5 条第 1 項に規定する登録住宅性能評価機関をいう。以下同じ。）であるものに対し、法第 11 条第 1 項に規定する特定建築行為（住宅の新築に限る。以下この項及び次項において同じ。）に係る住宅について設計住宅性能評価（住宅の品質確保の促進等に関する法律施行規則（平成 11 年建設省令第 20 号）第 3 条第 1 項に規定する変更設計住宅性能評価（次項において「変更設計住宅性能評価」という。）を除く。）の申請又は確認（同令第 7 条の 2 第 1 項に規定する変更確認（次項において「変更確認」という。）を除く。）の求めをした場合（当該住宅の設計者の氏名の記載がある設計評価申請添付図書（同令第 3 条第 1 項に規定する設計評価申請添付図書をいう。以下この項及び次項において同じ。）又は確認申請添付図書（同令第 7 条の 2 第 1 項に規定する確認申請書の添付図書をいう。以下この項及び次項において同じ。）を提出した場合に限る。）において、当該登録建築物エネルギー消費性能判定機関に当該特定建築行為に係る建築物エネルギー確保計画を提出するときは、第 1 項の規定にかかわらず、施行規則第 3 条第 1 項の表の各項に掲げる図書を同項の計画書に添えることを要しない。この場合において、当該登録住宅性能評価機関に提出した当該設計評価申請添付図書又は当該確認申請添付図書のうち建築物のエネルギー消費性能に係るものは、当該計画書の添付図書とみなす。
- 5 登録建築物エネルギー消費性能判定機関であって登録住宅性能評価機関であるもの（前項の規定により提出した建築物エネルギー消費性能確保計画の変更に係る直前の建築物エネルギー消費性能適合性判定を受けたものに限る。）に対し、特定建築行為に係る住宅について変更設計住宅性能評価の申請又は変更確認の求めをした場合（当該住宅の設計者の氏名の記載がある設計評価申請添付図書又は確認申請添付図書を提出した場合に限る。）において、当該登録建築物エネ

ルギー消費性能判定機関に当該特定建築行為に係る変更後の建築物エネルギー消費性能確保計画を提出するときは、第2項の規定にかかわらず、施行規則第3条第1項の表の各項に掲げる図書（変更に係る部分に限る。）を同項の計画書に添えることを要しない。この場合において、当該登録住宅性能評価機関に提出した当該設計評価申請添付図書又は当該確認申請添付図書のうち建築物のエネルギー消費性能に係るものは、当該計画書の添付図書とみなす。

- 6 前5項の規定により提出、通知又は申請される書類（以下「提出書類等」という。）を受けるに当たり、あらかじめ提出者等と協議して定めるところにより、電子情報処理組織（センターの使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。以下同じ。）と提出者等の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）の使用又は磁気ディスク（これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができる物を含む。以下同じ。）によることができる。

（建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等の引受け及び契約）

第8条 センターは、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出又は軽微変更該当証明申請（以下「建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等」という。）があったときは、次の各号に掲げる事項について審査し、これを引き受ける。

- (1) 提出された建築物エネルギー消費性能確保計画又は軽微変更該当証明申請のあった計画の変更（以下「提出された建築物エネルギー消費性能確保計画等」という。）が特定建築行為に係るものであること。
 - (2) 提出された建築物エネルギー消費性能確保計画等に係る建築物が、第6条に定める判定の業務を行う範囲に該当すること。
 - (3) 提出書類等に形式上の不備がないこと。
 - (4) 提出書類等に記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
 - (5) 提出書類等に記載された内容に明らかな虚偽がないこと。
- 2 センターは、前項の審査により同項各号に該当しないと認める場合においては、その返却又は補正を求めるものとする。
- 3 提出者等が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合においては、引き受けできない理由を説明し、提出者等に提出書類等を返還する。
- 4 第1項の規定により建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を引き受けた場合には、センターは、提出者等と判定に係る契約を締結するものとする。
- 5 前項の契約に用いる書面には、少なくとも次に掲げる事項について、明記するものとする。
- (1) 提出者等の協力義務に関する事項のうち、提出者等は、センターの求めに応じ、判定のために必要な情報をセンターに提供しなければならないこと。
 - (2) 判定料金（証明料金を含む。以下同じ。）に関する事項のうち、次に掲げるもの。
 - (a) 判定料金の額に関すること。
 - (b) 判定料金の納入期日に関すること。
 - (c) 判定料金の納入方法に関すること。
 - (3) 判定の業務の期日に関する事項のうち、次に掲げるもの。
 - (a) 適合判定通知書又は軽微変更該当証明書（以下この条において「適合判定通知書等」という。）を交付し、又は適合判定通知書等を交付できない旨を通知する期日（以下この項において「業務期日」という。）に関すること。
 - (b) 提出者等の非協力、第三者の妨害、天災その他のセンターに帰すことのできない事由により業務期日が遅延する場合には、提出者等と協議の上、業務期日を変更できること。

- (4) 契約の解除及び損害賠償に関する事項のうち、次に掲げるもの。
- (a) 適合判定通知書等の交付前までに提出者等の都合により建築物エネルギー消費性能確保計画を変更する場合においては、当該建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を取り下げ、別件として再度提出等を行わなければならないものとし、この場合においては、元の判定に係る契約は解除されること。
 - (b) 提出者等は、適合判定通知書等が交付されるまで、センターに書面をもって通知することにより当該契約を解除できること。
 - (c) 提出者等は、センターが行うべき判定の業務が業務期日から遅延し、又は遅延することが明らかであることその他のセンターに帰すべき事由により当該契約を解除したときは、既に支払った判定料金の返還を請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができること。
 - (d) センターは、提出者等の必要な協力が得られないこと、判定料金が納入期日までに支払われないことその他の提出者等に帰すべき事由が生じた場合においては、提出者等に書面をもって通知することにより当該契約を解除することができる。
 - (e) (d)の規定により契約を解除した場合においては、一定額の判定料金の支払いを請求できるとともに、生じた損害の賠償を請求することができる。
- (5) センターが負う責任に関する事項のうち、次に掲げるもの。
- (a) 当該契約が、提出された建築物エネルギー消費性能確保計画等に係る建築物が建築基準法（昭和 25 年法律第 201 号。）その他の法令に適合することについて保証するものではないこと。
 - (b) 当該契約が、提出された建築物エネルギー消費性能確保計画等に係る建築物に瑕疵がないことについて保証するものではないこと。
 - (c) 提出書類等に虚偽があったことが適合判定通知書等交付後に発覚した場合、当該判定の結果について責任を負わないこと。

(判定の実施方法)

- 第 9 条 センターは、法、これに基づく命令及び告示並びに判定マニュアルに従い、判定を法第 42 条に規定する適合性判定員に実施させる。
- 2 判定の業務に従事する職員のうち適合性判定員以外の者（以下「適合性判定補助員」という。）は、適合性判定員の指示に従い、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等の受付け、建築物エネルギー消費性能確保計画の内容の予備審査その他の補助的な業務を行う。
- 3 適合性判定員は、判定のために必要と認める場合においては、提出者、申請者又は設計者に対し、必要な図書の閲覧又は提出を求める。
- 4 センターは、提出書類等の記載内容に虚偽があると認められた場合、判定を行えない旨及びその理由を提出者等に通知する。

(建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等の取下げ)

- 第 10 条 提出者等は、適合判定通知書等の交付前に建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を取り下げる場合においては、その旨を記載した取下げ届出書をセンターに提出する。
- 2 前項の場合においては、センターは、判定の業務を中止し、提出書類等を提出者等に返却する。

(適合判定通知書の交付等)

- 第 11 条 センターは、提出を受けた建築物エネルギー消費性能確保計画が建築物エネルギー消費

性能基準に適合することを判定したときには、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出を受けた日から 14 日以内に、適合判定通知書を提出者に交付する。

- 2 センターは、提出を受けた建築物エネルギー消費性能確保計画が建築物エネルギー消費性能基準に適合しないことを判定したときには適合しない旨の通知書を、建築物エネルギー消費性能基準に適合するかどうかを決定することができないときには適合するかどうか決定できない旨の通知書を、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出を受けた日から 14 日以内に、提出者にそれぞれ交付する。
- 3 センターは、前 2 項の規定にかかわらず、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出を受けた日から 14 日以内に当該提出者に適合判定通知書を交付することができない次に掲げる合理的な理由があるときは、28 日の範囲内において、その期間を延長することができる。この場合においては、その旨及びその延長する期間並びにその期間を延長する理由を記載した通知書を建築物エネルギー消費性能確保計画の提出を受けた日から 14 日以内に提出者に交付する。
 - (1) 提出書類に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であるとき。
 - (2) 提出書類に記載された内容が明らかに虚偽であるとき。
 - (3) 判定に必要な提出者の協力が得られなかつたことその他のセンターの責めに帰すことのできない事由により、判定を行えなかつたとき。
 - (4) 判定料金が納入期日までに納入されていないとき。
- 4 センターは、軽微変更該当証明申請のあった計画の変更が施行規則第 5 条（同令第 9 条第 2 項において読み替えて準用する場合を含む。）に規定する軽微な変更（以下単に「軽微な変更」という。）に該当することを確認したときには、速やかに別記様式第 2 による軽微変更該当証明書を交付する。
- 5 センターは、軽微変更該当証明申請のあった計画の変更が軽微な変更に該当しないことを確認したときには別記様式第 3 による軽微な変更に該当しない旨の通知書を、軽微な変更に該当するかどうかを決定することができないときには別記様式第 4 による軽微な変更に該当するかどうか決定できない旨の通知書を、申請者にそれぞれ交付する。
- 6 適合判定通知書の交付番号は別表 1 に、軽微変更該当証明書の交付番号は別表 2 に定める方法に従う。
- 7 適合判定通知書、第 2 項若しくは第 3 項の通知書又は軽微変更該当証明書若しくは第 5 項の通知書（以下「適合判定通知書等」という。）の交付については、あらかじめ提出者等と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの交付によることができる。

第 3 章 適合性判定員等

（適合性判定員の選任）

第 12 条 センターの理事長（以下「理事長」という。）は、判定の業務を実施させるため、施行規則第 36 条に定める要件を満たす者のうちから、適合性判定員を選任するものとする。

- 2 適合性判定員は、職員から選任するほか、職員以外の者に委嘱して選任することができるものとする。
- 3 適合性判定員の数は、法第 38 条第 1 項第 1 号に定める数以上となるように毎年度見直しを行うものとする。

（適合性判定員の解任）

第 13 条 理事長は、適合性判定員が次のいずれかに該当するときは、その適合性判定員を解任するものとする。

- (1) 業務違反その他適合性判定員としてふさわしくない行為があったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の遂行に堪えられないと認めるとき。

(適合性判定員の配置)

第 14 条 判定の業務を実施するため、適合性判定員を本所に 2 名以上、各事務所支所に 1 名以上配置する。

- 2 前項の適合性判定員は、公正かつ適確に判定の業務を行わなければならない。
- 3 各事務所及び支所の適合性判定員が休暇を取る場合及び繁忙その他の事情により判定の業務を実施できない場合にあっては、他の事務所等の適合性判定員が当該事務所において臨時に判定の業務を行う。この場合において、緊急のとき等にあっては、本所において当該判定の業務を行う。
- 4 センターは、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出件数が一時的に増加することその他の判定の業務を適切に実施することが困難となった場合にあっては、速やかに、新たな適合性判定員を選任する等の適切な措置を講ずる。

(適合性判定員の教育)

第 15 条 適合性判定員の資質の維持向上を図るため、適合性判定員に対し、年 1 回以上、センターの行う判定の業務に関する研修を受講させるものとする。

(判定の業務の実施及び管理の体制)

第 16 条 判定の業務に従事する職員を、第 14 条第 1 項の規定により配置された適合性判定員を含め 2 人以上、本所及び各事務所支所に配置する。

- 2 センターは、法第 38 条第 1 項第 3 号に規定する専任の管理者に住宅部長又は住宅部次長を任命する。
- 3 専任の管理者は、判定の業務を統括し、判定の業務の適正な実施のため、必要かつ十分な措置を講ずるものとし、全ての適合判定通知書等の交付について責任を有するものとする。

(秘密保持義務)

第 17 条 センターの役員及びその職員（適合性判定員を含む。）並びにこれらの者であった者は、判定の業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

第 4 章 判定料金等

(判定料金の納入)

第 18 条 申請者は、別表 3 に定める適合判定料金（以下「判定料金」）を現金又は指定する方法等により納入する。

- 2 センターと申請者は、別途協議により、一括納入その他別の収納方法を取ることができる。
- 3 前 2 項の納入に要する費用は申請者の負担とする。

(判定料金を減額するための要件)

第19条 判定料金は、次の各号に掲げる場合に減額することができるものとする。なお、減額する割合については、別表4のとおりとする。

- (1) 建築物エネルギー消費性能確保計画の提出とともに、建築基準法第6条の2第1項の確認の申請又は同法第18条第4項の通知を行うとき。
- (2) 標準設計を用いた複数の建築物に係る建築物エネルギー消費性能確保計画の提出が、一定期間内に見込めるときで、判定の業務が効率的に実施できるとセンターが判断したとき。
- (3) センターが定める期間内に、センターが定める一定の回数以上の建築物エネルギー消費性能確保計画の提出が見込まれるときで、共通化、画一化した図書が提出されるなど判定の業務が効率的に実施できるとセンターが判断したとき。
- (4) あらかじめセンターが定める日又は期間内に建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等をするとき。
- (5) 第7条第4項又は第5項に基づき、登録建築物エネルギー消費性能判定機関であって登録住宅性能評価機関であるものに対し、設計住宅性能評価の申請若しくは確認の求めをする又は変更設計住宅性能評価の申請若しくは変更確認の求めをするとき。

(適合判定料金の返還)

第20条 納入した判定料金は、返還しない。ただし、センターの責に帰すべき事由により判定の業務が実施できなかった場合には、この限りではない。

第5章 雜則

(登録の区域等の掲示等)

第21条 センターは、登録の番号、登録の有効期間、機関の名称、代表者氏名、主たる事務所の所在地、登録の区域を、判定の業務を行うすべての事務所においての公衆に見やすいように掲示するとともに、インターネット上に開設したセンターホームページ (<https://www.shizuoka-kjm.or.jp/>)において公表するものとする。

掲示する。

(判定業務規程の公開)

第22条 センターは、本規程を判定の業務を行うすべての事務所で業務時間内に公衆の閲覧に供するとともに、前条に規定するセンターのホームページにおいて公表するものとする。

(財務諸表等の備付け)

第23条 センターは、毎事業年度経過後3月以内に、その事業年度の財産目録、貸借対照表及び正味財産増減計算書並びに事業報告書（その作成に代えて電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られる記録であって、電子計算機による情報処理の用に供されるものをいう。以下この条及び次条において同じ。）の作成がされている場合における当該電磁的記録を含む。次条において「財務諸表等」という。）を作成し、5年間事務所に備えて置くものとする。

(財務諸表等に係る閲覧等の請求)

第24条 利害関係人は、センターの業務時間内は、いつでも、次に掲げる請求をすることができ

る。ただし、(2)又は(4)の請求をするには、1件につき1,100円（税込）を支払わなければならぬものとする。

- (1) 財務諸表等が書面をもって作成されているときは、当該書面の閲覧又は謄写の請求
- (2) 前号の書面の謄本又は抄本の請求
- (3) 財務諸表等が電磁的記録をもって作成されているときは、当該電磁的記録に記録された事項を紙面又は出力装置の映像画に表示する方法により表示したものの閲覧又は謄写の請求
- (4) 前号の電磁的記録に記録された事項を電磁的方法であつて次に掲げるもののうち、センターが定めるものにより提供することの請求又は当該事項を記載した書面の交付の請求
 - (a) センターの使用に係る電子計算機と法第46条第2項第4号に掲げる請求をした者（以下この条において「請求者」という。）の使用に係る電子計算機とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電気通信回線を通じて情報が送信され、請求者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報が記録されるもの
 - (b) 磁気ディスクをもって調製するファイルに情報を記録したものを受け取る方法
 - (c) (a)及び(b)に掲げる方法は、請求者がファイルへの記録を出力することによる書面を作成できるものとする。

（帳簿及び書類の保存期間）

第25条 帳簿及び書類の保存期間は、次に掲げる文書の種類に応じ、それぞれに掲げるものとする。

- (1) 法第47条第1項の帳簿 建築物エネルギー消費性能適合性判定の業務の全部を廃止するまで
- (2) 提出書類、建築物エネルギー消費性能適合性判定に係る契約書その他建築物エネルギー消費性能適合性判定に要した書類 15年間

（帳簿及び書類の保存及び管理の方法）

第26条 前条各号に掲げる帳簿及び書類の保存は、建築物エネルギー消費性能適合性判定中にあっては特に必要がある場合を除き事務所内において、建築物エネルギー消費性能適合性判定終了後にあっては施錠できる室、ロッカーその他の秘密が漏れることのない確実な方法で行う。

2 前項の保存は、当該帳簿及び書類を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録し、当該記録を必要に応じ電子計算機その他の機械を用いて明確に表示することができるようして、これを行うことができる。

（軽微変更該当証明に係る帳簿の備付け等）

第27条 センターは、法第47条第1項の帳簿に準じて軽微変更該当証明に係る帳簿を備え付け、これを保存することとする。

2 センターは、法第47条第2項の書類に準じて第7条第3項の申請書類、軽微変更該当証明に係る契約書その他証明に要した書類を保存することとする。

3 第1項の帳簿及び第2項の書類の保存期間は第25条に、当該帳簿及び書類の保存及び管理の方法は第26条に、それぞれ準ずることとする。

（電子情報処理組織に係る情報の保護）

第28条 センターは、電子情報処理組織による建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等の受付及び適合判定通知書等その他の図書の交付を行う場合においては、情報の保護に係る措置につ

いて別に定めることとする。

(判定の業務に関する公正の確保)

- 第 29 条 センターの役員又は職員（適合性判定員を含む。）が、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を自ら行った場合又は代理人として建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を行った場合は当該建築物に係る判定を行わないものとする。
- 2 センターの役員又は職員（適合性判定員を含む）が、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等に係る建築物について次のいずれかに該当する業務を行った場合は当該建築物に係る判定を行わないものとする。
- (1) 設計に関する業務
 - (2) 販売又は販売の代理若しくは媒介に関する業務
 - (3) 建設工事に関する業務
 - (4) 工事監理に関する業務
- 3 センターの役員又は職員（適合性判定員を含む。）で、センター以外に所属する法人の役員又は職員である者（過去 2 年間に所属していた法人の役員又は職員であった者を含む。）が、次のいずれかに該当する業務を行った場合、当該役員又は職員（適合性判定員を含む。）は当該建築物に係る判定を行わないものとする。
- (1) センターに対する建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を自ら行った場合又は代理人として建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等を行った場合
 - (2) センターに対する建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等に係る建築物について前項（1）から（4）までに掲げる業務を行った場合
- 4 前 3 項までに掲げる場合に準ずる場合であって、判定の業務の公正な実施に支障を及ぼすおそれがあるものと認められる場合は当該建築物に係る判定を行わないものとする。
- 5 適合性判定員又はセンターの役員若しくは職員以外の者は、判定の業務に従事してはならない。

(損害賠償保険への加入)

- 第 30 条 センターは、判定の業務に関し支払うことのある損害賠償のため保険契約（てん補限度額が年間 1 億円以上であるもの及び地震その他の自然変象によって明らかとなった瑕疵についての補償が免責事項となっていないもの。）を締結するものとする。

(事前相談)

- 第 31 条 提出者等は、建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等に先立ち、センターに相談をすることができる。この場合において、センターは誠実かつ公正に対応するものとする。

附 則

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 6 月 1 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 1 月 1 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 6 月 26 日より施行する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日より施行する。

附 則

この規程は、令和元年 6 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 3 年 1 月 18 日より施行する。

附則

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 4 年 5 月 9 日より施行する。

附則

この規程は、令和 4 年 7 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 6 年 1 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 7 年 4 月 1 日より施行する。

附則

この規程は、令和 7 年 11 月 1 日より施行する。

別表 1

適合判定通知書の交付番号は、16 桁の数字を用い、次のとおり表すものとする。

○○○一〇〇一〇〇〇〇一〇一〇一〇〇〇〇〇

1～3 桁目	登録建築物エネルギー消費性能判定機関番号（「〇〇〇」）
4～5 桁目	01：本所 11：中部事務所 13：西部事務所 14：西部事務所袋井支所 15：東部事務所 16：東部事務所富士支所 17：甲府事務所
6～9 桁目	西暦
10 桁目	1：新築 2：増築・改築
11 桁目	1：床面積の合計が 300 m ² 未満 2：床面積の合計が 300 m ² 以上 1,000 m ² 未満 3：床面積の合計が 1,000 m ² 以上 2,000 m ² 未満 4：床面積の合計が 2,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満 5：床面積の合計が 10,000 m ² 以上 50,000 m ² 未満 6：床面積の合計が 50,000 m ² 以上
12～16 桁目	通し番号（9 桁目までの数字の並びの別に応じ、0 0 0 0 1 から順に付するものとする。）

別表 2

軽微変更該当証明書の交付番号は、16 桁の数字を用い、次のとおり表すものとする。

軽微○○○一〇〇一〇〇〇〇一〇一〇一〇〇〇〇〇

1～3 桁目	登録建築物エネルギー消費性能判定機関番号（「〇〇〇」）
4～5 桁目	01：本所 11：中部事務所 13：西部事務所 14：西部事務所袋井支所 15：東部事務所 16：東部事務所富士支所 17：甲府事務所
6～9 桁目	西暦
10 桁目	1：新築 2：増築・改築
11 桁目	1：床面積の合計が 300 m ² 未満 2：床面積の合計が 300 m ² 以上 1,000 m ² 未満 3：床面積の合計が 1,000 m ² 以上 2,000 m ² 未満 4：床面積の合計が 2,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満 5：床面積の合計が 10,000 m ² 以上 50,000 m ² 未満 6：床面積の合計が 50,000 m ² 以上
12～16 桁目	通し番号（9 桁目までの数字の並びの別に応じ、0 0 0 0 1 から順に付するものとする。）

別表3

建築物省エネ法判定料金

記載の判定料金は、電子交付を前提として、センターに建築基準法第6条の2第1項の確認申請又は同法第18条第4項の計画通知を行う場合の額です。

※併用住宅又は複合建築物の料金は、住宅とその他の用途毎に該当判定料金を算出し、それぞれを合計した金額となります。

【住宅】（一戸建て住宅、共同住宅等）

金額<税抜金額>/単位：円

審査条件		(Mは住戸数)	
一戸建て住宅 (併用住宅の場合、住宅部分)		単 独	
共同住宅等 (共同住宅、長屋、複合建築物の場合は住宅部分)	住棟全体 (共用部を含まない)	2 住戸	37,400<34,000>
		3~10 戸	63,800<58,000>
		11~25 住戸	63,800+6,600×(M-2) <58,000+6,000×(M-2)>
		26 住戸以上	89,100+4,400×(M-2) <81,000+4,000×(M-2)>
	住棟全体 (共用部を含む)	2 住戸	126,500<115,000>
		3~10 戸	139,700+6,600×(M-2) <127,000+6,000×(M-2)>
		11~25 住戸	165,000+4,400×(M-2) <150,000+4,000×(M-2)>
		26 住戸以上	215,600+3,300×(M-2) <196,000+3,000×(M-2)>

・併願割引

ア 設計住宅性能評価又は長期使用構造等の確認の添付図書を合理化する場合（コース2）
は、一戸建ての住宅は12,100円<税抜：11,000円>、共同住宅等の場合は、上表の料金の
2/10の金額とします。なお、併願対象業務と同じ計算内容の場合に限ります。

イ 建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）、低炭素建築物新築等計画の技術的審査、性能向上計画認定に係る技術的審査、認定表示に係る技術的審査のいずれかと併願の場合は、一戸建ての住宅は12,100円<税抜：11,000円>、共同住宅等の場合は上表の料金の2/10の金額とします。なお、併願対象業務と同じ評価内容の場合に限り、最初に提出された申請は割引対象とせず、それ以後申請されたものを対象とします。

ウ 他機関申請の場合、割引の対象としません。

エ 変更申請も併願割引の対象となります。

・建築確認を他機関に申請する場合は、上表の料金の1.1倍となります。

・変更申請に係る料金

ア 変更申請料は上表の料金の1/2の金額とします。ただし、直前の判定通知書を他機関で交付している場合は、上表の料金とします。

イ 判定通知書の交付を受けた建築物の計画を変更して軽微変更該当証明が必要な場合の料金は、上表の料金の1/2の金額とします。ただし、直前の判定通知書を他機関で交付している場合は、上表の料金とします。

- 適合判定通知書（計画変更適合判定通知を含む）又は軽微変更該当証明書を書面にて交付する場合の料金は、上表の料金に、1通につき3,300円＜税抜：3,000円＞の額を加算した額とします。

○判定通知書の再発行・記載事項の変更

判定通知書の再発行又は記載事項を変更する場合の料金は、1通につき6,600円＜税抜：6,000円＞となります。

【非住宅】

税込金額(税抜金額)／単位：円

判定対象床面積の合計	評価方法	建築物の用途		
		ホテル等、病院等、集会所等及びこれらを含む複合用途	工場等	左記以外
50 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	72,600(66,000)	72,600(66,000)	72,600(66,000)
	モデル建物法	30,800(28,000)	30,800(28,000)	30,800(28,000)
	モデル建物法 (小規模)	24,200(22,000)	24,200(22,000)	24,200(22,000)
50 m ² 以上 200 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	192,500(175,000)	91,300(83,000)	111,100(101,000)
	モデル建物法	96,800(88,000)	39,600(36,000)	61,600(56,000)
	モデル建物法 (小規模)	78,100(71,000)	31,900(29,000)	48,400(44,000)
200 m ² 以上 300 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	240,900(219,000)	114,400(104,000)	139,700(127,000)
	モデル建物法	126,500(115,000)	50,600(46,000)	75,900(69,000)
	モデル建物法 (小規模)	101,200(92,000)	41,800(38,000)	61,600(56,000)
300 m ² 以上 500 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	253,000(230,000)	126,500(115,000)	151,800(138,000)
	モデル建物法	139,700(127,000)	50,600(46,000)	89,100(81,000)
500 m ² 以上 1,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	328,900(299,000)	151,800(138,000)	215,600(196,000)
	モデル建物法	165,000(150,000)	63,800(58,000)	101,200(92,000)
1,000 m ² 以上 2,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	392,700(357,000)	202,400(184,000)	266,200(242,000)
	モデル建物法	227,700(207,000)	89,100(81,000)	126,500(115,000)
2,000 m ² 以上 3,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	468,600(426,000)	266,200(242,000)	316,800(288,000)
	モデル建物法	266,200(242,000)	126,500(115,000)	151,800(138,000)

3,000 m ² 以上 4,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	531,300(483,000)	303,600(276,000)	367,400(334,000)
	モデル建物法	303,600(276,000)	139,700(127,000)	190,300(173,000)
4,000 m ² 以上 5,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	595,100(541,000)	342,100(311,000)	430,100(391,000)
	モデル建物法	328,900(299,000)	151,800(138,000)	215,600(196,000)
5,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	683,100(621,000)	379,500(345,000)	506,000(460,000)
	モデル建物法	354,200(322,000)	165,000(150,000)	253,000(230,000)
10,000 m ² 以上 20,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	759,000(690,000)	443,300(403,000)	581,900(529,000)
	モデル建物法	443,300(403,000)	190,300(173,000)	278,300(253,000)
20,000 m ² 以上 50,000 m ² 未満	標準入力法 主要室入力法	910,800(828,000)	506,000(460,000)	708,400(644,000)
	モデル建物法	506,000(460,000)	253,000(230,000)	367,400(334,000)
50,000 m ² 以上	標準入力法 主要室入力法	別途見積	別途見積	別途見積
	モデル建物法	別途見積	別途見積	別途見積

- ※ 1 判定対象床面積が 50,000 m²以上の判定料金は、別途見積とする。
- ※ 2 建築物の用途で工場等とは、工場（評価対象が照明設備のみ）、危険物の貯蔵又は処理、水産物の増殖場若しくは養殖場、倉庫、卸売市場、火葬場又はと畜場、汚物処理場、ごみ焼却場、その他これらに類するものとする。
- ※ 3 用途区分が複数存在する建築物の料金は、建築物の用途区分毎に対象面積に該当料金を算出し、これらの合計金額（複数用途集計）と建築物全体の対象面積において、最も高額な用途の料金を比較して低額なものとします。
- ※ 4 判定通知書の交付を受けた建築物の計画変更をする場合の料金は、上記表の料金に 2 分の 1 を乗じた額とする。ただし、直前の判定通知書を他機関で交付している場合は、上記表の料金とする。
- ※ 5 判定通知書の交付を受けた建築物の計画を変更して軽微変更該当証明が必要な場合の料金は、上記表の料金に 2 分の 1 を乗じた額とする。ただし、直前の判定通知書を他機関で交付している場合は、上記表の料金とする。
- ※ 6 建築確認を他機関に申請する場合の判定料金は、上記表の料金の 1.1 倍の額とする。
- ※ 7 建築物全体が計算の対象から除外される用途の判定料金は、上表によらず 12,100 円 < 税抜 : 11,000 円 > とする。ただし、変更により計算が必要になった場合は、上記表の料金とする。
- ※ 8 判定通知書の再発行又は記載事項を変更する場合の料金は、1 通につき 6,600 円 < 税抜 : 6,000 円 > とする。
- ※ 9 適合判定通知書（計画変更適合判定通知を含む）又は軽微変更該当証明書を書面にて交付する場合の料金は、上表の料金に、1 通につき 3,300 円 < 税抜 : 3,000 円 > の額を加算した額とします。

別表4

判定料金の減額する割合

号	判定料金を減額する要件及び減額の割合
2	<ul style="list-style-type: none"> ○標準設計を用いた複数の建築物に係る建築物エネルギー消費性能確保計画の提出が、一定期間内に見込めるときで、判定の業務が効率的に実施できるとセンターが判断したとき。 ○減額の割合の上限：20%
3	<ul style="list-style-type: none"> ○センターが定める期間内に、センターが定める一定の回数以上の建築物エネルギー消費性能確保計画の提出が見込まれるときで、共通化、画一化した図書が提出されるなど判定の業務が効率的に実施できるとセンターが判断したとき。 ○減額の割合の上限：40%
	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物エネルギー消費性能確保計画の申請の合計で、1年間に30件以上の申請を行った場合 ○減額の割引の上限：3%
	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物エネルギー消費性能確保計画の申請の合計で、1年間に50件以上の申請を行った場合 ○減額の割引の上限：5%
	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物エネルギー消費性能確保計画の申請の合計で、1年間に80件以上の申請を行った場合 ○減額の割引の上限：8%
4	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物エネルギー消費性能確保計画の申請の合計で、1年間に100件以上の申請を行った場合 ○減額の割引の上限：10%
	<ul style="list-style-type: none"> ○建築物エネルギー消費性能確保計画の申請の合計で、1年間に30件以上の申請に加え、BELS、低炭素若しは性能向上計画等の申請と併せて申請書類の共通化や標準化がされており、評価等の業務が効率的に実施できるとセンターが判断した場合 ○減額の割引の上限：40%
4	<ul style="list-style-type: none"> ○あらかじめセンターが定める日又は期間内に建築物エネルギー消費性能確保計画の提出等をするとき。 ○減額の割合の上限：40%

(※)複数の要件に該当する場合は、減額の割合を加算できるものとするが、加算後の減額の割合の上限は50%とする。

(第一面)

軽微変更該当証明申請書

年 月 日

(一財) 静岡県建築住宅まちづくりセンター
様

申請者の住所又は
主たる事務所の所在地
申請者の氏名又は名称
代表者の氏名

設計者氏名

建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則第13条の規定により、建築物エネルギー消費性能確保計画の変更が同規則第5条（同規則第9条第2項において読み替えて準用する場合を含む。）の軽微な変更に該当していることを証する書面の交付を申請します。この申請書及び添付図書に記載の事項は、事実に相違ありません。

【軽微な変更をする建築物の直前の建築物エネルギー消費性能適合性判定又は軽微変更該当証明】

【適合判定通知書又は軽微変更該当証明書等番号】 第 号

【適合判定通知書又は軽微変更該当証明書等交付年月日】 年 月 日

【適合判定通知書又は軽微変更該当証明書等交付者】

【変更の概要】

(本欄には記入しないでください。)

受付欄	軽微変更該当証明書番号欄	決裁欄
年 月 日	年 月 日	
第 号	第 号	
係員氏名	係員氏名	

(注意) 第二面から第五面までとして建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律施行規則別記様式第一の第二面から第五面までに記載すべき事項を記載した書類を添えてください。ただし、直前の建築物エネルギー消費性能適合性判定又は軽微変更該当証明を当機関で実施している場合、変更に係る部分のみの提出とすることができます。

建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律施行規則第13条の規定による
軽微変更該当証明書

第 号

年 月 日

建築主 殿

(一財)静岡県建築住宅まちづくりセンター
理事長

下記による申請書に記載の建築物エネルギー消費性能確保計画の変更は、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則第5条（同規則第9条第2項において読み替えて準用する場合を含む。）の軽微な変更に該当していることを証明します。

記

1. 申請年月日 年 月 日

2. 建築場所

3. 建築物又はその部分の概要

(1) 建築物の用途 非住宅建築物 一戸建ての住宅 共同住宅等 複合建築物

(2) 非住宅部分の用途

(3) 工事種別 新築 増築 改築

(4) 延べ面積 m² (非住宅部分) m²

(5) 構造

(6) 建築物の階数 (地上) 階 (地下) 階

(7) 計画を変更する建築物の直前の建築物エネルギー消費性能適合判定

適合判定通知番号

適合判定通知書交付年月日

適合判定通知書交付者

4. 規則第3条の軽微な変更に該当していることを確認した適合性判定員氏名

(注意) この証は、大切に保存しておいてください。

軽微な変更に該当しない旨の通知書

第 号
年 月 日

建築主 殿

(一財)静岡県建築住宅まちづくりセンター
理事長

別添の軽微変更該当証明申請書及び添付図書に記載の計画の変更は、下記の理由により建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則第5条（同規則第9条第2項において読み替えて準用する場合を含む。）の軽微な変更に該当しないことを確認しましたので、通知します。

記

(理由)

軽微な変更に該当するかどうかを決定することができない旨の通知書

第 号
年 月 日

建築主 殿

(一財)静岡県建築住宅まちづくりセンター
理事長

下記による軽微変更該当証明申請書は、下記の理由により建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則第5条（同規則第9条第2項において読み替えて準用する場合を含む。）の軽微な変更に該当するかどうかを決定することができないので、通知します。

記

1. 申請年月日 年 月 日

2. 建築場所

(理由)

(備考)